

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 皿倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

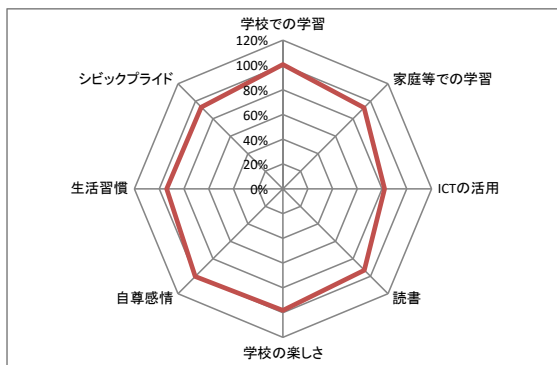
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.4 | 59 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 10.0 | 63 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 正答率について、観点別にみると「知識・技能」、形式別にみると「短答式」の問題が全国よりも高く、領域別にみると「書くこと」の領域が全国よりも低かった。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくできた問題 | 送り仮名に注意して、「比べて」という漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題（正答率98.6%（全国比+5.5ポイント）） | |
| | 努力が必要な問題 | 文章やグラフを読み取り、自分の考えを分かりやすく書くことができるかどうかをみる問題（正答率18.3%（全国比-8.4ポイント）） | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 正答率について、形式別にみると「記述式」の正答率は全国よりも高く、「選択式」の正答率は全国よりも低かった。領域別にみると、どの領域も全国と同程度であった。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | $50 \times 40 = 2000$ の計算をすることができるかどうかをみる問題（正答率88.7%（全国比+7.9ポイント）） | |
| | 努力が必要な問題 | 正三角形の一つの角の半分の大きさが 30° であることを見いだすことができるかどうかをみる問題（正答率21.1%（全国比-3.8ポイント）） | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 | |
|--|--|
| ・「友達関係に満足している」「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の項目で、9割以上の児童が肯定的に回答した。 | |
| ・「読書は好きですか」の項目の肯定的回答は全国よりも高かった。しかし、「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の項目の肯定的回答は、全国よりも低かった。 | |
| ・ICT活用に関する各項目の肯定的回答の割合が全国より下回るものが多かった。 | |
| ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は7割未満であり、全国よりも10ポイント以上低かった。 | |
| ・上記のうち課題となるものについては、授業改善を進めたり保護者への啓発を図ったりする必要がある。 | |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・思考力・判断力・表現力を育成することができるように、根拠を基にして筋道をたてて考えたり表現したりする活動を日頃の学習の中で多く取り入れる。
- ・学習意欲を高めることができるように、探究的な学びを教科等の中に位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・起床・就寝時刻の設定や朝食をとること、家庭学習の習慣化について、児童や保護者に機会を捉えて啓発する。
- ・地域の行事への参加や、地域や社会をよくするために自分にできることについて考える場面を時間をつくり、シビックプライドを醸成する。